

令和 5年度 園評価書

園名

園番号

29

園名

用宗こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A :よくできている B :概ねできている、C :あまりできていない、D :できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
こころ豊かでたくましい子	『一人の楽しいをみんなの楽しいに！』～楽しいをつなげよう～	○自分の好きな遊びを見つけてじっくりと楽しむ	○夏は水・泡・泥、秋は自然物などを遊びに取り入れ、季節を感じられることを意識した。また、素材や玩具・道具など、子どもの人数に合わせ数をそろえる事で、子どもが自ら遊びを選び取り様々な感覚遊びを楽しむことができた ○自由遊びの時間を多く取り遊びの保証をして行く中で、一人一人が遊びを見つけ満足するまで続ける姿が見られた。遊びを見つけられなかったり続かなかったりする場面では、保育者が子どもの興味を探りながら一緒に遊びを見つけ、じっくり取り組める環境にしている	B	B	・子どもたちの目が輝いているのが伝わる ・楽しく園生活を過ごしているのが伝わる ・季節や自然を感じられる体験を子どもたちにはたくさんしてほしい	・一人一人が自ら好きな遊びを選び取れるよう環境を整え、じっくりと遊びに取り組めるようにしていく  ・遊びの中で、子どもの興味や関心を受け止め、さらに好奇心が高まるよう発達に合わせた素材や用具を準備していく  ・保育者が一緒に遊ぶ中で友達の思いに気付けるような声掛けや働きかけを増やしていく  ・子どもの思いを肯定的に受け止め、保育者が一緒に遊ぶ中で状況に合わせて間に立ったり見守ったりしながら友達がつながるよう援助していく
		○いろいろなことに興味・関心を持ち、「なんだろう?」「どうしてかな?」と考え、試したり工夫したりする	○各学年が様々な活動に取り組む中で、子どもの興味や関心を受け止めたり共感したりすることを意識している。また、子どもの様子に合わせて遊びを見守ったり、一緒に考えたりしている。その中で子ども自身も興味関心が高まり、自分なりに試行錯誤しようとする姿も見られるようになった ○友達をしている遊びに興味を持ち、同じ遊びと一緒に楽しみながらさらに遊びを広げる姿がある	B	B	・子どもたちの能力を引き出すための指導に重点を置いた教育をお願いします ・子どもの好奇心を大切にしているのを感した	
		○自分の好きな遊びを楽しむ中でおもしろさを見つけ、保育者や友だちに伝えようとする	○自分の好きな遊びの中で楽しい事や面白かったことの実験・様々な発見や感動など、心が動いたことを自分なりの表現で保育者や友達に伝えようとする姿が見られる。保育者が受けとめ、共感したり友達に伝えるよう意識して関わったりしていく事で、さらに遊びが広がる姿が見られた ○思いはあっても自信を持って伝えられない時には、保育者が子どもの気持ちに寄り添いながら援助していき、子どもが“話してよかった”と思えるよう対応するよう心掛けた	B	B	・季節や伝統行事などを、子どもたちの興味に沿うように教材化しているのが素晴らしいと感じた	

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	○幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿をもとにねらいを持って、日々子ども達の興味に合わせて遊びを広げていく	○幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について、子どもの興味を探っていき活動につなげるよう意識し保育している。お店屋さんごっこ・運動遊び・様々な製作など、各学年が工夫し発達に合わせ取り組んだ ○日々の子どもの姿から保育の振り返りを行い10の姿に照らし合わせるが、保育という総合的な活動の中でどのような力が育っているか整理するのが難しかった	B	B	・目の前にいる子どもを見て、成長やその時の年齢構成や人数によって対応を変えていただいているのはありがたいと思う	・10の姿について保育者が学びながら理解し、子どもの発達に合わせた保育を組み立てていく ・異年齢の自然な関わりを大切に、憧れや思いやりの気持ちを育みながら自己肯定感を高めていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	○個々の生活リズムを大切に、安心して生活できるように配慮し、早番、遅番保育の改善に取り組む	○早番では人数が増えきたら乳児と幼児を分けたり、遅番の部屋の環境を定期的に見直ししたりすることで、一人一人の子どもが安心して過ごせる環境にしている ○一人一人の体調や個々の朝の様子や伝言を学年ファイルに書き込むと共に、声にも出し互いに共有し合えるよう意識し、職員間でどの子にも丁寧にかかわることができた	B	A	・地域の特性を生かして、子どもたちに体験(見学)させているのがいいと思います	・早番や遅番の部屋の環境を整え、乳児も安全に過ごせるよう状況に合わせて玩具や環境の工夫をしていくと共に、定期的に見直し改善していく ・職員間の伝達は早番遅番ファイルを利用するが、書くだけでなく口頭で伝えることにより確実なものにし、子どもの安心につなげていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	○地域へ散歩に出掛け、地域の自然を保育に活かすことができるよう取り組む	○それぞれの学年ごとや異年齢で散歩に出かけ様々な自然物を発見し感動する姿がある。見つけた様々な自然物を使いごちそうづくりや石アート・転がし遊びなど、活動を楽しんでいる ○地域を散歩する中で、地域を知り松ぼっくりを拾った事がきっかけとなり、お散歩マップ作りを楽しむ学年もあった。	B	A	・津波訓練は、引き続き重点項目として、実施をお願いしたい	・異年齢の散歩を積極的に取り入れ、豊かな自然の中で発見や感動を味わえるようにしていく ・お散歩マップを作成し、地域の良さを保護者に発信、共有していく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	○様々な訓練を通して、避難場所・経路や役割分担など確認し、職員間で共通理解を図り安全意識を高める	○総合防災訓練をはじめ、毎月様々な災害を想定し訓練を行い、避難時に乳児に入るフリー職員が分かりやすいよう、壁に避難経路や役割分担など表示するなど工夫した。子どもたちや職員も経験を重ねることで素早く避難する事ができるようになっている。これからも、よりスムーズな避難ができるよう安全意識を高めていきたい ○ヒヤリハットや小さな怪我等、毎日打ち合わせで共有しあうが検討しあう時間の確保が難しかった。これからは園内研修で取り入れるようにしたい	B	B		・津波に対する防災意識を高く持ち、毎月の様々な想定で行われる訓練に参加をしていく ・小さなヒヤリハットを職員間で共有したり、検討したりすることで、大きな事故を防ぐようにしていく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	○見る触る等の五感を刺激する食育集会を実施し、その内容や給食の人気メニューレシピを保護者にも発信し、食への関心につなげていく	○毎月行われる食育の会では、実際の食材を見たり触れたりする内容を取り入れたことで、食に対して興味を持つ姿が増えた ○今年度は子どもたちが野菜を育て素材そのものを味わったり、その野菜を使ったクッキングをしたりして楽しんだことで、野菜が苦手な子も食べるなどの姿が見られた ○その日の給食サンプルだけでなく、実際にその日に使う原材料(本物)を用意し、毎日玄関へ掲示していったことで、保護者が確認したり、子どもと会話をすることができた	B	A		・年間を通して栽培からクッキングまで計画を立て実践すると共に、保護者へ様子を伝えたり、給食レシピを手に取りやすく工夫したりする中で食への関心を高めていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	○特別支援コーディネーターを中心に、支援者会議で話し合った内容や外部研修で学んだ事を全職員で共有し、皆が同じ支援を行えるようにする	○支援者会議を行いサポートプランを基に支援児の個別の関わりについて話をしたり、子どもの育ちについて情報共有をしたりする事で、担当児に対する保育の充実につながった ○職員会議で支援児の毎月の姿を職員間で共通理解し合う事で、担任以外の職員も同じ対応をすることができ、園全体で支援児の保育に関わることができた	B	B	・職員の勤務体系等の難しさの中、職員内の情報共有を工夫しているのが良いと思う	・支援児を対象に一人一人の発達に合わせた少人数の活動に取り組み、支援児を中心にした保育を大切にしている ・支援者会議を定期的に行い、職員間で情報を共有していきながらどの子もみんなで見守れるようにしていく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	○分掌は責任を持ち、企画書は早め(前月)の提出を心掛けるなど、余裕を持って保育準備を行う。また、変更点は報告しあい全職員が共通理解を持って取り組む	○全体的計画を会議の時に必ず持ち寄り、各分掌が自分の担当について伝えながら職員間で次月の取組みを確認し合っていることで見通しを持ち、保育を進める事ができた。 ○企画書を作成後、職員全員が把握しやすいようにホワイトボードや打合せノートに貼り、全職員が目を通しやすいようにした事で、準備がスムーズに行えるようにした	B	B		・分掌のリーダーだけでなく、職員全体で様々な行事に取り組みよう意識していく。企画書など掲示が確認しやすい場所や方法など工夫し周知できるようにする
6 研修	(1)研修体制の充実	○重点目標を意識し視点を絞った園内研修に取り組む ○職員間で環境構成について意見を出し合い、環境の充実に活かしていく	○年間でも5回の研究保育(そのうち2回外部研修)を予定通り行い、研修部を中心に事前研修事後研修を進めている。ほとんどの職員が参加できるよう調整することで、職員間で同じ視点で保育を見て話し合い、また互いに率直な意見を出し合える雰囲気の中で、子どもへの関わり方や環境についてより学びを深め合うことができた	B	B	・会計年度職員をはじめ、日々多忙な中で研修(学び)を大切にしている姿勢が素晴らしいと思います	・毎回、園内の公開保育へ会計年度職員も参加できるようにし、学びを共有しあったり、保育の良さを認め合ったりしながら、自分の保育につなげていく。また、やって終わるのではなくそこから成長できるよう研修の振り返りやその後の様子も職員間の学びになるようにしていく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	○子ども自ら進んで手に取れるような環境を用意する。また、様々な遊びにつながるよう、素材・教材研究を意識していく	○子どもの発達に合わせながら、玩具や環境など適切な量や種類を用意した事や、玩具の使い方を子どもと一緒に確認することで、友達と共有して楽しむ姿が増えた。また、発達に合わせ環境を変えたり手作りおもちゃや遊具を作ったりする事で、一人一人楽しんでいる ○製作物で使う技法や、子どもへの指導法などを職員間で共有するために製作物をもちより見せあうことで、教材の知識や活用法を知り、子どもの発達に合う素材教材を工夫することにつなげる事ができた	B	B		・小さなみ会からのクリスマスプレゼントをゴミになるという意見もあって、個人のプレゼントは無難なものだったが、先生からの提案でお正月遊びのもの(コマ)にして、それを園で遊ぶようにしてくれて、活用してもらえたので良かった
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	○日々の様子など、写真を使ったボードを作り、遊びの経過や行事の取り組みを保護者に丁寧に伝えていく。また、個別の話など信頼関係を築く中で子育ての喜びを味わえるようにする	○毎日の活動の取組みをボードで伝える中で、つぶやきなど子どもの思いも伝わるよう工夫し作成し貼り出している。また、送迎時に保護者にその日の小さなエピソードなどを伝える事で、親子の会話に繋がったり、より園での姿を知ってもらったりする事ができた ○一人一人の保護者と面談の時間を設け、子どもの育ちや保護者の悩み園での関わりなど伝え合い、ともに子育てについて情報交換できた	B	A		・送迎時にその日のことを伝えてもらったり、様子を教えてもらい親の知らない姿も知れたり、自分の子どもをしっかりと見てもらっているという安心感があります
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	○近隣の園や小学校に公開保育を実施し、また小学校の授業参観や交流をしていく中で、自園の教育保育の充実につなげていく	○中堅研修で、近隣の小学校の公開授業に参加したり、様々な研修を通じて他園の公開保育を見たりすることができた。また、会計年度職員を含む全職員が他園の公開保育に参加し、子どもへの関わりや保育環境など、学びにつながった ○研修内容を職員会議で報告したり、資料の回覧をすることで、子ども理解につながり、自園の保育に活かすことができるので、今後も研修報告の時間を作っていく	B	B		・小学校の公開授業に参加する機会を大切に、小学校と情報共有を図ると共に、小学校へ散歩に出かける機会を作っていく ・近隣園への公開保育に会計年度職員も参加することで近隣園の様子を知ると共に、交流につなげていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	○地域との連携を大切に、地域の行事に積極的に参加することで、つながりが深まるようにする	○今年度は来賓の方を発表会に招待し、海開き・敬老会をはじめ、高齢者とのふれあい会など地域の行事に参加し交流を重ねることができた。今後も地域との連携は大切にしていきたい ○おしゃべりサロンを毎月行い、楽しく遊んだり子育てに関する専門的な話を聞いたりしている。民生委員や主任児童委員を含めた地域のボランティアの方も参加してくれており、毎月5組~10組程度の親子が参加している	B	A		・用宗の地域行事を通じて様々な交流を継続していく中で、地域に親しみつなごうを大切にしている